



発表者は
このように準備された
ポスターの前で待ちます。

ポスターを見る人々 →



発表者はポスターの前で質問を受け付けます。
← 質問に答える発表者

フォーム、
なるほど・・・
納得。



次は14生の番です。頑張ってください。

13生の皆様、お疲れ様でした。

2002年7月3日、事務棟3F・第一会議室で行われた
展開研究のポスター発表の様子です。



当日、会場には大勢の
人が集まりました。

人・人・人!!!!!!
人です!!!



教授、発表生、
その他大勢の学生が
この会場に集まりました。



超域科目とは

1年次から2年次にかけて、文系と理系にまたがる複数の教官が、チームを組んで
学生を教育する科目のことです。異なる専門領域における考え方や方法論について、
教官と学生がディスカッションする「超域研究」と、その後学生が自主的に具体的
テーマを決めて論文を作成し、発表する「展開研究」とが用意されています。この
科目の修得を通じて、自立的な学習・研究意欲と多角的な問題意識を涵養すること
を目指すという、総合科学部らしい科目の一つです。

ポ
ス
タ
ー
発
表
が
あ
り
ま
し
た

研究室紹介

大山渡之研究室 (言語文化)
 渡部正博研究室 (環境共生)
 高田紀夫研究室 (知能)
 船岡知宏研究室 (新造)
 藤矢寛史研究室 (人間)
 小池新一研究室 (情報行動)

研究室紹介 23

特捜！
 “免許取得単位上限設定”



特捜！
 履修登録単位
 上限設定 35



思いやりは
 国を超えて

コラム
 「思いやりは
 国を超えて」 38

卒論題目 40
 13年度 40
 14年度 44
 人事異動 48
 編集後記 50

飛翔 63号

目次



巻頭言 6



大学院って
 どんなところ？ 7



実習日記！ 13
 別子山実習 14
 宮島実習 17



旅のススめ 19

大学院ってどんなとこ?



写真は国際協力研究科

皆さんは大学院に関心がありますか?
 それとも、少し気になっていたりしますか?
 ここでは、総合科学部の先生が関与する大学院組織、また入学試験等について紹介します。進学に関心を持っている人だけでなく、まだ考えていない人も、ぜひ大学院進学を考慮する参考にしてください。

巻頭言

広島大学では、現在、学問の高度化・地球規模のさまざまな問題の発生などを背景にして、教育研究の中心を学部から大学院に移す“大学院講座化”が進んでいます。一九九九年四月の理学研究科を皮切りに、二〇〇二年四月には医歯薬学総合研究科、生物圏科学研究所が講座化され、残るは社会科学部研究科のみとなりました。講座化が完了すると、広島大学は名実ともにわが国有数の総合研究大学の一つとなるわけです。

ここで一つお断りしておきたいことは、教育研究の中心が学部から大学院に移るからといって、学部教育をおろそかにしてよいということにはならないということです。今まで以上に、学士課程において基礎・基本と総合的な思考力を重視した教育を行っていないと、総合研究大学も砂上の楼閣になってしまいます。

ところで、わが総合科学部の先生方は、社会科学部、生物圏科学の2研究科に主力をおきながら、文学、教育学、理学、工学、先端物質科学、国際協力科の合計8研究科の教育研究に携わっておられます。このような状況で、大学院講座化が進みますと、学部としての一体感が希薄になり、教養的教育の担当当局としての基盤も揺らぎかねません。

そこで、われわれ総合科学部の教官は、「総合的な視点から現代のさまざまな課題にチャレンジする。さまざまな学問のぶつかり合い・融合の中から新しい知の世界を切り拓く」という学部創設の精神を一層押し進め、学部一大学院一貫体制を築くことにより、学部のアイデンティティーと教養的教育実施体制の核を確立するために、総合系研究科設置構想を練っています。

実は、総合系研究科の設置は、総合科学部の発足時からの悲願でもありました。そもそも、総合科学部が発足した一九七四年の九月(学部発足は同年八月)に、広島大学評議会で、広島大学の大学院の将来的整備については、「学部の構成にとらわれず、人文社会科学、自然科学、教育科学及び医学の各領域で構成するとともに総合研究科(仮称)を設ける」という、「5領域構想」が、当時の飯島宗一学長により報告されました。もともとこの時の総合研究科(仮称)は、広島大学全体をリシヤルした上での構想であり、現在われわれが考えているものとは少し性格が異なります。その後、初代学部長の今堀誠二先生、名譽教授の金田晋先生をはじめとする諸先輩のさまざまな努力があったのですが、実現せず今日に至っています。

今後成案ができましたら大学内で、あるいは文部科学省等に説明し、了承を頂いてゆかなければなりません。道遙か、いくつもの険しい山を越えなければならぬでしょう。しかし、教職員は一九九一年になってこの案を実現し、二〇〇四年四月からの「国立大学法人化」後の大学淘汰の時代にみずからの道を切り開いてゆきたいと思っています。

どうか、在学生、卒業生の諸君にも新研究科設置構想に対するご理解と全面的なバックアップをお願いしたいと思います。これからの混迷の時代を切り拓くのは総合科学的な発想しかありません。志を高く持って前進しましょう。

巻頭言



総合科学部学部長
堀越孝雄教授

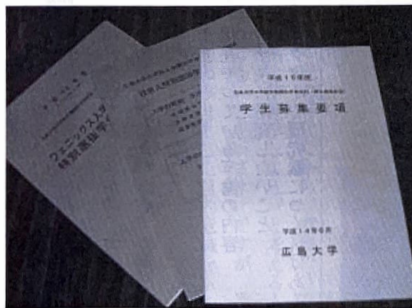
出願資格

- 大学を卒業した者
 - 学校教育法の規定により学士の学位を授与された者
 - 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
 - 大学に3年以上在学した者で、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認める者（飛び入学）
 - これらの資格を取得見込みの者
- 以上のうち、いずれかに該当する者

入学試験

大学院に入るには、もちろん入学試験を受けなくてはならない。
生物圏科学研究科の入学試験を例にすると、一般選抜の他に、社会人特別選抜やフェニックス入学制度による特別選抜も実施される。その他にも、面接形式の推薦入試も行われている。

社会人特別選抜では、出願資格に「入学時において2年以上の職歴若しくはその他社会的経験を有する者」という条件が付く。学力検査では、志望分野への適性、専門知識、思考力、表現力を見るための口述試験のみが行われる。
入学後も社会人として仕事をしながらの修学を希望する人に対しては、仕事と研究が両立するような制度もある。この場合の研究指導は、夜間や土曜日、夏季・冬季休業期間等の他に、情報ネットワークを利用して行うこともある。



昨年度の進学者

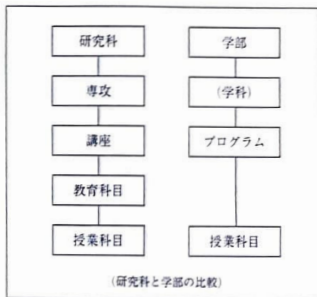
平成13年度の総合科学部卒業生の場合、175人（秋卒業を含む）のうち41人が大学院に進学している。

左の表を見てみると、広島大学の大学院に進学している人が多いことがわかる。中でも、生物圏科学研究科と社会科学研究所に進学している人が多い。これは、この二つの研究科に総合科学部の教官が多く所属しているため、学部時代の研究を続ける人が多く進学しているからだと思う。

大学院	人数
広島大学大学院生物圏科学研究科	20
広島大学大学院社会科学研究所	10
広島大学大学院国際協力研究科	2
広島大学大学院理学研究科	1
広島大学大学院工学研究科	1
広島大学大学院教育学研究科	1
広島大学大学院先端物質科学研究科	1
神戸大学大学院総合人間科学研究科	2
東京大学大学院新領域創成科学研究科	1
奈良先端科学技術大学院大学	1
名古屋大学大学院人間情報学研究科	1

平成13年度卒業生の進学した大学院

大学院の組織



大学院には、それぞれの分野ごとに研究科が設置されている。

総合科学部関連の研究科としては、生物圏科学、社会科学、理学、工学、国際協力、文学、教育学、先端物質科学の8研究科が設置されている。その他にも、医学系統の研究科以外であれば進学が可能だ。もちろん、他大学の大学院にも進学することができる。

広島大学の研究科についての詳しいことは、各研究科にホームページ（下記参照）があるので、そちらを見ていただくといだろう。

上に図で示したように、学部と研究科では、その組織がかなり違う。総合科学部の場合、学科はひとつしかないのので、授業科目は基本的にプログラムによって分類される。しかし研究科の場合は、専攻、講座、教育科目と、かなり細かく分かれている。

- 生物圏科学研究科
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/gsbstop/index.htm>
 社会科学研究所
<http://www.eco.hiroshima-u.ac.jp/shakaiken/index-j.html>
 理学研究科
<http://sci.hiroshima-u.ac.jp/>
 工学研究科
<http://www.eden.hiroshima-u.ac.jp/>
 国際協力研究科
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/idec/index-j.html>
 文学研究科
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/bungaku/index-j.html>
 教育学研究科
<http://www.ed.hiroshima-u.ac.jp/index.html>
 先端物質科学研究科
<http://theory.adsm.hiroshima-u.ac.jp>

フェニックス入学制度（高齢者を対象とする正課教育プログラム）による特別選抜では、外国語（基礎英語）の筆記試験と、大学院入学への意欲、研究への目的意識等を評価する口述試験とが行われる。なお、外国語の試験には、辞書の持ち込みが可能になっている。

今セメ（一 Semester）はたまたま集中講義が月曜日の午前中に二つ入ってしまっただので、院生というのにフルコマの日ができてしまいました。木曜日と金曜日の午後は、学部生の授業である環境科学実験のTA（ティーチング・アシスタント）もやっています。また、研究室のセミナーが金曜

時間割を教えてください

まだ前期分しか受けてないのですが、英語の教科書を読み進めていく授業や、あるテーマについて学生に発表してもらった授業（これは英語の論文紹介もあり）があります。あと、オムニバス形式（内容によって先生が変わる形式）のものもあります。成績評価は、基本的にテストではなくレポートか発表によって行われます。授業のない時間帯は、自分の研究に関係した論文（自分の趣味のものもありますが）を読んだり、読書をしたり、研究室のみんなとしゃべったりしています。研究のことを考えていることもありますね。

僕は大気環境学会に所属しています。これは年に一度開かれ、場所は毎年まちまちです。内容は、研究発表や講演などで、現段階における研究の最先端を知ることができてとても刺激になります。学会には去年も参加しましたが、そのときはいろいろな人の現在行っている研究発表を聞くだけでした。今年は僕も発表します。

この不況の時代だから、就職できないのでりあえず進学しよう、と考える人たちは少なくないと思います。ですが、進化する以上しっかりとした目的意識をもって生活を送ってください。こんな時代だと余計に自分の夢や希望が失われそうになります。ですが、それらの熱い思いをしっかりと胸にとどめ、自分たちの力で次世代の人達のものでもある未来を、より良いものにしませう。 Boys! Be ambitious!!! (取材) 後藤周平

について教えてください

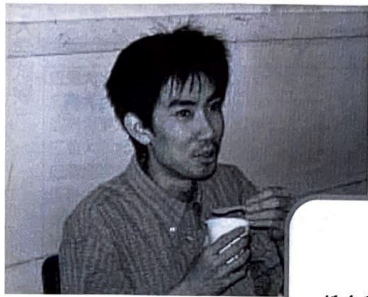
松田さんの今セメスターの時間割

月1	生物圏影響物質変動予測論
2	生物圏変動予測特論
3	気水圏物質循環計画論
4	温暖化・有害物質循環論
木2	植物養分循環評価論

日に行われています。これは「演習」という形できちんと必須単位が当てられています。あと、学部生と一緒に授業になる共同セミナーも受けています。

これから大学院を目指す人に心構え・アドバイスなど

あります。これは学会に所属し、経験の浅い人たちが集まって話し合い、いろいろな情報交換をする場という感じですが。 博士課程後期へ進むことは考えていますか？ 一応、考えとしてはあります。まだはつきりとはしていませんが、今のところ進まざるを得ない、と感じているところです。



松田敏英さん
総合科学部10生
自然環境科学研究コース卒業

大学院生インタビュー
実際の大学院とはどういうところなのだろうか。
生物圏科学研究科・環境循環系制御学専攻
環境化学研究室所属の松田敏英さんにお話を伺ってみました。

どんな研究しているんですか

ディーゼル排気ガスから生成するヒドロキシラジカルについて研究しています。ヒドロキシラジカル（OHラジカル）は活性酸素の一種で、とても酸化力が強く、様々な物質を分解・生成します。そのため、環境中における物質の動態が解明する際に、このOHラジカルの働きが重要となります。また、植物に対する有害性を疑われています。OHラジカルは、自動車の排気ガスが要因となって生成することが確認されたので、その点について解明することを目的としています。

大学院へ行くって思い

学ぶことが楽しいからと、自分には向いていると思ったからです。まだまだ学生生活を続けたい、という思いもありました。

から進学を考え始めました

大学に入ったときからです。あとは、兄が大学院に行くようになってからですね。また、前の質問とも関係するのですが、学

部の授業では物足りないと感じたときです。

だったので、どんな勉強をしましたか

僕らが受験するときから、大学院の入試にも推薦入試ができたので、勉強は面接対策が中心でした。特に、
1. 現在やっている卒論の内容
2. 進学後に研究したいこと
3. ドクターや研究職につく気はあるのかなどです。

進学で迷ったのはありましたか

卒論内容についてはかなり細かく突っ込まれるので、十分勉強することが必要です。面接官から、「こんなこともありませんが、知っていますか？」などという質問さえありました。 時期でいくと、心積もりは一ヶ月前からしていました。

消去法で就職が無しだったので、迷うことはありませんでした。

実習日記!



写真は51P

新居浜・旧広瀬邸にて



宮島・もみじ谷公園にて

8/5~6

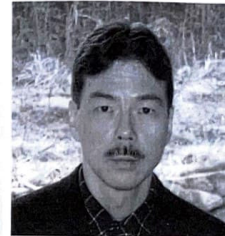
別子山実習 (基礎野外実習A)

11/16

宮島実習 (地学基礎実験)

大学院ってどんなところ?

大学院への進学、 考えてみませんか?



総合科学部

鎌田勇助教授

堀越学部長の「巻頭言」にあるように、広島大学の「大学院講座化」が進んでいます。「大学院講座化」とは平たく言うと、教員組織が学部から大学院研究科に移行すること。さし当たって学士を目指している皆さんにはさして影響を受けなさそうに見えるかもしれませんが、でも長い目で見れば実は影響大なのです。

それは教育の重点がより大学院教育に移り、それに伴い、院の学位を持った人が今より多く社会に進出する、ということです。大学院の拡充を目指すのは広島大学だけでなく、全国の大学で行われていますし、広島県下の幾つかの大学も大学院を新設したニュースを、皆さんも耳にしたはず。

これは文部科学省の方針であり、日本のこれからの方向と言えるかもしれません。米国の大学院を範にして、技術者のみならず、社会の隅々まで、大学院の高度専門教育を受けた人を配置する。医者、法律家、管理職は通常すべて院の学位を持つのが米国です。ちなみに20~24歳の大学・大学院就学率は、日本が30%、米国が60%とされています。広島大学もロースクール(法科大学院)の

新設が決まり、社会人大学院マネージメント専攻も既にありますし、メディアカル・スクールの新設も検討されています。理系の院への進学は既に多数派ですが、これからは文系もそうなる時代が到来する、ということです。

専門教育の重心が大学院へ移ることにより、学部(学士)教育はより一般教養的、総合的教育も可能になります。文系は文系のことしか、理系は理系のことしか分らないければ、このハイテク、複雑社会では困りますよね。総合科学部はその弊害が少ないはずですが。

そんな中で、在学生の皆さんが学士の学位だけで社会に出て、何年か後には院の学位を持つた後輩との競争にさらされる可能性があります。勿論、その時点で大学院へ入学できるように、社会人枠が大幅に拡大されているとは思いますが。

ともかく、就職難のこの時代、大学院へ進学することは逆境を逆手に取るとも言えるかも知れませんね。或いは時代の先取りとも言えるでしょう。院への進学、検討してみませんか?

実習日記!

～別子山実習～

8月5日

基礎野外実習へはバスで行くということだったので、広大西口が集合場所となっていた。行ってみると、ほとんどの人はすでにバスに乗り込んでいた。

マイクロバスのようなものを想像していたが、目の前にあるのは大型の観光バスだった。車体には豊栄交通と書いてあった。

遅刻してきた一人を乗せて、バスは出発した。

大学の周りをまわってプールパールに乗った頃、突如富井先生が立ち上がった。

「200字感想文を富井宛に送ってください。適当でいいので」

このことが後に悲劇をまたらすことになる。



西条ICから高速に乗って尾道へ。尾道からはしまなみ海道。

しまなみ海道は通行料金が高いという話をよく聞く。

料金所の表を見てみると…確かに高い。それにしても変わった道だなぁ。

島と島の間は高速道路のようになっていたのだが、島の内部では一般道のようになっているところもある。

こぼせばいい。

四国に上陸。今治だ。

富井先生が研究しているという、織田が浜を見学。

どうやら砂浜の埋め立てが問題となっていて、富井先生はその訴訟について研究しているらしい。

織田が浜からは、かつて銅精錬所があったという四阪島が見えた。

精錬所が営業していた当時は排出された煙が到達したそうだった。

煙の主成分は亜硫酸ガスで、松林に大きな被害をもたらしたという。

…何故か記念撮影。

ちなみに織田が浜は海水浴場になっていて、多くの海水浴客がいた。

彼らは、いきなり観光バスで現れて、記念撮影だけして帰っていった人々をどのように思ったのだろうか…。

再びバスに乗り込み高速へ。

石鎚山ハイウェイオアシスというところで厚食タイム。

とても高かった。

親子丼を注文したら、うでんまでついてきた。

あの、いいから安くしてください…。

高速道路をさらに東へ。西条や新居浜といった工業地帯を横目に見る。工場らしき所から煙がモクモクと。

しばし睡眠。

目が覚めると、ちよつと山道に入るところだった。

当然のことながら、山道は細く、曲がりくねっている。

そこを大型バスは力強く登っていく。がんばれ運転手さん!

途中から道路の拡張工事をしていった。

そのため、道路は片側通行に。

道路わきは絶壁…。

工事現場に看板があった。

「この工事はみなさんのガソリン税で行われています」

どっぞ大いに使ってください。安全のために。決して税金の無駄遣いなんて思いませんから。

しばらくするとトンネルが現れた。

それはただのトンネルではなかった。

中央線がない…。つまりはスレ違えないところですか?!

ところどころに避難所らしきものはあったが、大型観光バスであるこの車の前では意味のないこと。

しかもこのトンネルは狭いだけではなかった。とても長い。

もうこれは対向車が来ないことをただただ祈るばかりであった。

幸運なことに、トンネルを抜けるまでに対向車に遭遇するとはなかった。

今回の目的地のひとつ、別子山村に到着。

別子ふるさと館を見学。

規模はあまり大きくなかったが、いろいろな物が展示されていた。

それから公民館で、新居浜市役所の森賀さんの講演を聴く。

別子銅山の歴史に沿った話を聞かせていただいた。

その後、何故か再び記念撮影。

バスに乗り込み、今夜の宿泊地・筏津山荘へ。

山荘の手前でもすごく小さな橋を渡る。途中で橋が落ちなくてよかった…。

夕食までは自由行動(だと思っ)。付近を散策する。

鉱山への入り口は先日の台風で崩壊しており入れず。

山荘の側の川でマイナスイオンを吸収。その間富井先生と市川先生の姿が見えず。

すると夕食時に浴衣姿が登場。どうやら到着直後に入浴していたらしい。

夕食は川魚三昧だった。

乾杯の前に、富井先生の話が始まる。

「皆さんはホトトギスの鳴き声を知っていますか?」

前後の話は良く覚えてないが、何故かそのような話題になった。学生は全滅だったので、市川先生が指名される。

全員が目目している中、市川先生が答える。

「ホーホケキョ」

先生、それはウグイスです…。

夕食後、入浴。

とてもめろかった。

8月6日

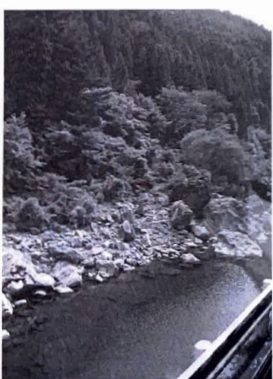
出発までに時間があるので、朝の散歩をする。

駐車場に行くと、バスの運転手さんが出発準備(?)をしていた。

「おはようございます。いやー、大きなバスですね」

よく狭い山道を通れたなとしみじみ思う。でもこれから昨日来た道に戻るんだよね

「ちよつと運転してみる?」と運転手さん。いえ、遠慮します。免許ないし。狭い…。



実習日記!

～別子山実習～

実習日記!

～宮島実習～



11月16日

今日は宮島実習だ。
しかし何故か現地集合。
みんな西条に住んでいるんだから、西条駅でも大学でもよかったのではないのか？
とにかく時間に間に合うように電車に乗らねば。
とりあえず自転車を飛ばして西条駅まで来てみた。
ふと見てみると、既に電車がホームに止まっている。
やほご。
急いで切符を買い、電車の中へ。

電車が揺られるごく一時間弱。宮島口駅に到着。



駅を出ると、院生の古澤さんが待っていた。歩いて渡船場へ向かう。
ここで大変なことに気づく。
しまった、厚ごはんを買ってない。
注意事項に「厚ごはん持参」って書いてあったのに。
運良へコンビニを発見。
厚ごはんを買って出てくると、そこには古澤さんの姿はなかった。
どうやら置いていかれたらしい。
渡船場につくと、既に船は出発直前。

やほご。
急いで切符を買い、船の中へ。
またかよ。
宮島上陸。
実は初宮島。
観光客の多さに少々とまどう。
渡船場の外で海堀先生と台流。
そこには見慣れぬ少年も。
海堀先生の息子さんだった。
参加者が全員集合したとこで、簡単な説明を受ける。
それから移動。厳島神社を素通りして紅葉谷へ。
宮島に来て厳島神社を素通りする人は珍しい。と思う。

昭和20年9月17日、直撃した枕崎台風によって発生した土石流は、厳島神社内にも流れ込んだそうだ。
原爆の直後に台風直撃とは。
日本三景だということもあって、普通の復旧工事が行われなかったらしい。
そこで作られたのが庭園砂防。
土石流の運んできた岩石をそのまま使って作られたそうだ。
紅葉谷川沿いを上流へ向かう。
こんなところは普通は歩かないと思う。

実習日記!

～別子山実習～

再び昨日登ってきた道を下る。
しばらくすると例のトンネルが現れた。
今回も運良く対向車が来る前に通過することができた。
山を下り、平地に出る。
やっと安心して走れる道に。
別子銅山記念館に到着。
そこでは上垣館長の話聞く。
かつて別子銅山では高純度の銅鉱石が採れていた。
しかし長い間採掘しつづけた結果、含銅率はどんどん低くなっていった。
そこで、どれだけ効率よく回収できるかという技術が開発されるようになってくる。
最終的には、山を掘りすぎたために山体が圧力に耐えられなくなり、閉山に至る。
その後、館内を見学。
別子銅山の坑道のモデルなどを見る。
もちろんその後は記念撮影。
ク(っ)に移動。
ここで風食をとる。
が、またしても料金が高い。

仕方ないので軽食で済ます。
バスに乗り、広瀬歴史記念館へ。
講師はまたもや森賀さんだった。
今回は住友のコンビナートについての話。
別子銅山を経営していた住友は、閉山後様々な企業になっていった。
例えば、荒れた山に木を植えていたところは住友林業へ。
亜硫酸ガスから肥料を作っていたところは住友化学に。
その後、館内を見学。
しかし残念なことに、時間の関係で早々に隣接する旧広瀬邸を見学。
ここで事件発生。
富井先生が行方不明に。
ここは広瀬幸平が引退後、四阪島の煙を見ていたところだそう。
西園寺公望が入ったという風呂場などがあった。
最後の記念撮影をして、バスに戻る。
バスでは富井先生が涼しそうに座っていた。
全行程を終了して、あとは西条に帰るだけとなる。



2日間の疲労のせいかわ、睡魔に襲われる。気が付くと、そこはもう尾道だった。
高速道路に乗り換え、西条へ。
途中小谷PAでトイレ休憩をしたが、多くの人はバスを降りようとはしなかった。
みんなお疲れです。
西条駅で数人を降ろし、広島大学へ。
昨日集合した場所で解散。
後日、20字感想文を提出。
適当でいいよという富井先生の言葉もあり、実習とは直接関係ないが実習中に感じたことをつらつらと書いた。
みんなの感想文を集めた旅のしおりが作成され、参加者に配布される。
見てみると、みんなは普通に実習について書いていた。
もっとまじめに書けばよかった...

実習記!

～宮島実習～



ふと目に留まる「ミミ」。
よく見ると結構ある。
こんなとこに捨てるとなると非常識な。
川沿いを進みながらゴミ拾いをする。
海堀少年も協力してくれた。
足場を踏み外し、川の中に足を突っ込んでしまつた。悲劇。

もみじだに駅からロープウェイに乗る。
ロープウェイ内にて海堀親子による松枯れ
談義が。

「松食い虫にやられた松はちっちゃな穴があいてるんだよね」
「そうだな。でもそれだけじゃないぞ。松脂が出なくなつて倒れやすいんだ」

かやたに駅で乗り継ぎ、しいわ駅に。
しいわ駅から登山道を進む。
途中、ウリハダカエデなどを観察しつづ。
山頂付近に来ると、古澤さんが巨石を指差した。
どうやら昔地震でバランスが崩れ、崩落の危険性があるとのこと。
頭の上に落ちてこられたら困るので、急いで通過する。

山頂は人だらけ。
わずかな隙間で昼ごはんを。
何故かシカもいる。
どうやって登ってきたんだろう。
展望台で、花崗岩の風化の過程についての話を聞く。

宮島は花崗岩だけの島らしい。
どこの展望台にもあるような望遠鏡があった。お金を投入してみるやつ。

なんとなくお金を入れずに覗いてみる。
なんと、お金を入れなくても見えるではないか。

むいっに見える花崗岩の割れ目を観察。
今度は登山道を下る。
川沿いにはいくつも砂防ダムがあった。
ここで海堀先生の専門である、砂防についての講義。

どうやら砂防ダムにはいくつかの働きがあるらしい。

しかも砂防ダムはいっぱいの状態で役に立つものなんだそうだ。
谷間にたまった倒木などの不安定堆積物が、土石流を大きくする原因になっているらしい。初耳。

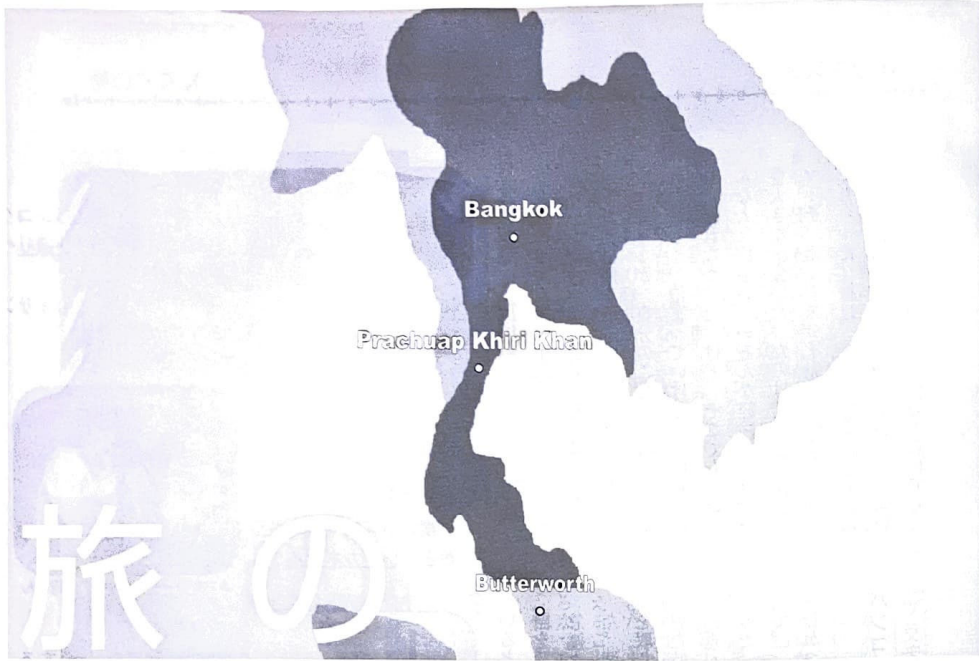
後でレポートを書くために、メモを取る。
もみじ谷公園に到着。
色鮮やかな紅葉に驚く。きれいだ。
さすがは日本三景。
集合写真を撮る。
出席の証拠になるらしい。

実習も終わり、ふもとの店で海堀先生がもみじ饅頭をこっそりつくってくれた。
毎年恒例の行事らしい。

焼きたてのもみじ饅頭がこれほど美味しいものは。感激。
海堀先生、ごちそうさまでした。

その後解散。
疲れたけど楽しかった。
レポートはまだ今度やるやつ……

(取材) 後藤周平



旅の

～木村圭太、タイ・シンガポールに行く～

ススメ



Person / 木村圭太 (Keita Kimura)

総合科学部14生。愛知県出身。旅、そして人との出会いをこよなく愛する行動派。タイ旅行は今回で2回目となる。
「タイの独特の熱気の中にいると、生きてるって実感します！」





9月3日
名古屋空港出発、バンコクに到着後、カオサン通りへ
9月4日
一緒に来た友人とカオサン通りを探索

▲右が木村



▲右がマーチ、左が彼のお母さん

9月5日
友人の付き添いでプラチャップキリカンへ
9月8日
一度バンコクへ戻ってから、シンガポールへ



▲シンガポールの高層ビル

9月9日
マレーシアへ入国するバタワースで半日休憩
9月10日
昼頃にシンガポールに到着

9月11日
シンガポールを散策する
9月12日
飛行機で、再びバンコクへ



▲シンガポール市内



▲バンコクの喫茶

9月13日
バンコクを散策
9月14日
カオサンでバイトをしている地元の大学生と遊ぶ

9月18日
深夜に、タイを出発し、翌日日本へたどり着く

日本語教師に初挑戦

友人のホームステイ先の、プラチャップキリカンには、三日間も滞在した。すぐバンコクに帰る予定だったのだが、ホストファミリーが、自分のことを気にいってくれたらしく、泊まっていけと強く押し切られ、断れなかった。けど、そこでも、いろんな人と出会い、いろんな経験をした。一番大きな出会いだったのは、地元の高校生マーチ。ホームステイ先の女の子に紹介してもらった。彼は、日本に留学に来ていたので、日本語を流暢に話していたが、驚いたのは、日本語の先生を自分の高校でして

いるということ。彼は、この村で唯一日本語を話せる人間なのだ。彼に、頼まれて、急遽クラスで日本語を教えることになった。楽しい授業にしたいと思って、ゲームを取り入れた。知りたい日本語を聞いた時、「I LOVE YOU」と返事が返って来た時は、思わず吹き出してしまった。後で、「みんな、授業面白かった」とマーチにいわれた時は、すごく嬉しかった。

バンコク空港で出会った日本人大学生
シンガポールから、飛行機でバンコクに

到着した時、2人日本人大学生に話かけられた。衝動で、タイに来たものの、英語も話せず、どこに行けばいいかさえも分からないという。なんか、数年前の自分を見ていた。初めて一人でタイに来た時、言葉も通じないし、どこに行ったらいいかも分からなくて、不安でいっぱいだった自分が、今はこうやってタイやそしてそこでの出合いを満喫している時、まるで、過去の自分に大丈夫だよと言っているような気分になっていた。

カオサン通り

世界のバックパッカーの聖地。格安の宿が並ぶことで有名。色んな国の人が、ここに集まる。日本人の旅行者もかなりいた。地元のタイの人々は、英語が堪能で、日本語も話すことができる人が多い。夜になると、ここは、違った顔を見せる。車も通ることができないほどの、屋台や、店などがスラリと並び、朝までどんちゃん騒ぎが続く。品物を値切る時は、夜行くのがオススメ。夜になると気前がよくなるのだ。



▲カオサン通りのお兄さんと

プラチャップキリカン

友人がホームステイした村。バンコクからバスで・・時間。バンコクの近代的な雰囲気とはがらつと異なり、西条を思わせるほど田舎。(南国の植物が生えているから、雰囲気は違っても・)。ここでは、友人のホストファミリーの強い押しを断れず3日間滞在することになったが、友人がたくさんで来た。また、なぜか、その高校で日本語教えることに。後で、何人かの生徒に「おもしろかった」といつてもらった時は、嬉しかった。

バタワース

マレーシアのリゾート地ベナン島の対岸にある港町。今回は、シンガポール行きバスがここで休憩をするということで、半日ここで過ごした。バタワースはビルもかなり立ち並び、結構町だった。「大きなデパートがあるから、行ってきな」とバスの運転手に言われたので、ひとまず行ってみることに。近代的なデパートで日本とほとんど変わらず、違和感はなかった。デパート内には、スターバックスもあり。

シンガポール

マライオンを象徴とする。一国家一都市の国。やはり、中国系の人が多いが、インド系、イスラム系の人など、多様な人種と宗教が共存していた。物価は、日本と同じかそれ以上に高い。ゴミのポイ捨ては法律で禁止されているため、町はとてもきれいだった。今回行ったのは、ナイトサファリとセントーサ島。ナイトサファリでは、日本語の解説が流れる車に乗った。(語対応の車がずらつとならんでいた。世界中から観光客が来るんだなと実感した。)セントーサ島は美しいビーチが広がる島。噴水ショーは、すごすぎて、思わず泣いてしまった。ただ、噴出するだけでなく、映像が映るのだ!



▲セントーサ島